

2. 今後の調査方針について

検討項目	要 点	備 考
2.1 今後の調査方針	<p>H17年度に実施を予定している調査は、対策の検討に資するための基礎データを取得するために実施するもので、下記の調査フローに則って実施することを計画している。</p> <div data-bbox="994 451 1884 1564" data-label="Diagram"> <pre> graph TD A[地形測量] --> B[地表地質踏査] A --> C[電気探査] A --> D[弾性波探査] B --> E[ボーリング調査] C --> E D --> E E --> F[廃棄物調査] E --> G[水質分析] E --> H[地下水位観測] F --> I[地下水流動シミュレーション] G --> I H --> I I --> J[総合解析] </pre> </div> <p>図-2.1.1 調査フロー図</p>	

2. 今後の調査方針について

検討項目	要 点	備 考
2.2 地形測量	<p>調査地における既往地形図は、1/500スケールの実測測量図面が処分場内部の範囲のみで、処分場周辺については1/5,000の航測地形図しか存在しない。このため、調査結果を正確に図示することが困難であるとともに、今後計画・設計を行うための基図としての精度を満たしていない。また、北陸トンネルの位置についても、これまで正確に図化されていない。</p> <p>このため、今後、詳細な調査、対策工の検討を行うための基図を作成することを目的に、以下の実施方針により、地形測量を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 設計基図として必要な処分場周辺の範囲については、1/500のスケールで実測測量を行う。 ② 周辺からの流入水の評価の際に必要な流域界を含めた範囲については、1/1,000のスケールで実測測量を行う。 ③ 実測測量は、対策工の検討を行うことも考慮し、木ノ芽川の対岸斜面までの範囲を対象として行う。 <div data-bbox="1003 758 1952 1717" data-label="Figure"> </div> <p style="text-align: center;">図-2.1.2 測量計画概要図</p>	

2. 今後の調査方針について

検討項目	要 点	備 考
<p>2.3 高密度電気探査</p>	<p>今回の調査において、処分場の背後（南側）に、大量の土砂が埋め立てられていることが明らかとなった。ただし、この埋立土砂の分布状況は未詳であることから、対策工の検討に大きく影響するものと考えられる。再度、埋立土砂を対象に高密度電気探査を実施することで、ボーリング調査を効率的に行う。</p> <p>高密度電気探査の結果、北側堰堤内部で浸出水の漏出経路が推定されたことから、対岸を含む河床付近における推定漏出経路の連続性を確認する必要がある。</p> <div data-bbox="1092 636 1887 1728" data-label="Figure"> <p>図-2.1.3 高密度電気探査調査計画概要図</p> </div>	

2. 今後の調査方針について

検討項目	要 点	備 考
2.4 弾性波探査	<p>岩盤調査には、物理探査とボーリング調査の組み合わせることで、ボーリング調査を効率的に行うことが可能である。特に岩盤強度や割れ目の発達状況等の岩盤性状を推定するには、弾性波探査が有効である。</p> <p>以上から、周辺地盤の岩盤状況、埋立土砂、廃棄物等の分布状況の概略を把握するため、弾性波探査を行う。</p> <div data-bbox="1083 567 1893 1690" data-label="Figure"> </div> <p>岩盤状況の把握</p> <p>廃棄物埋立深度の把握</p> <p>土砂分布と下位の基礎岩盤状況の把握</p> <p>凡 例</p> <ul style="list-style-type: none"> 廃棄物埋立てエリア 土砂埋立て推定エリア 北陸トンネル位置 ボーリング調査 (既往調査) 	

図-2.1.4 弾性波探査調査計画概要図